

NEC Cloud System ポータル インストール手順 お知らせ機能

第4.0.0版
2017年07月
日本電気株式会社

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- LINUXは、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc.の商標です。
- OpenStackは、OpenStack Foundationの登録商標または商標です。
- Elasticsearch, Logstash, Kibana は、Elasticsearch BVの米国およびその他の国における登録 商標または商標です。
- Drupalの名称およびそのロゴは、Drupal Associationが所有する登録商標または商標です。
- Cloudifyは、GigaSpaces Technologiesの登録商標または商標です。
- Google ChromeはGoogle Inc. が所有する商標または登録商標です。
- Mozilla、Firefoxの名称およびそのロゴは、米国Mozilla Foundationの米国および その他の国における登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の 名称は、関係各社の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

はじめに

概要

本書は、NEC Cloud System ポータル(NECCSPortal-dashboard)構築済み環境を対象に、お知らせ機能をインストールする手順について記載したものである。

お知らせ機能は大別して、下表に示した要素から構成される。

それぞれのインストール手順について、補足に示した内容を、本書に掲載する。

番号	名称	補足
1	announces-dashboard	Horizon拡張。NECCSPortal-dashboard が構築済みであることを前提。 本書にインストール手順を掲載する。
2	Drupal	Apache 上に構築する OSS。 Ansible による構築については、別紙参照。 本書では、Ansible での構築後に必要な作業をインストール手順として掲載する。

提供資材

本書で使用する資材を下表にまとめる。

番号	名称	補足
1	announces-dashboard.git.tar.gz	announces-dashboard を構築する資材。作業手順(1-1)で使用する。 ※構成管理サーバより .tar.gz でダウンロードした資材。
2	ansible.git.tar.gz	Ansible プレイブック資材。作業手順(2-1)で使用する。 ※構成管理サーバより .tar.gz でダウンロードした資材。

以上

目次

作業手順(1-1) ... announces-dashboard のインストール手順。すべての Horizon サーバでの作業。
1. ソースを展開する
2. バックアップ採取
3. ソース適用

作業手順(2-1) ... Ansible を用いて Drupal (Apache + Drupal) を構築する手順。Ansible サーバでの作業。
1. Ansible プレイブック構成ファイル の配置 と環境に合わせた編集
2. biz_db もしくは global.biz_db 上に、drupal データベースを作成
3. known_hosts への追加
4. Ansible プレイブックの実行

Ansible プレイブック構成ファイル

作業手順(3-1) ... Drupal の 初期構築手順。データベースが共有されている 冗長化構成であれば、片系での作業。
1. Druplインストーラーを起動
2. 言語選択
3. サイト情報設定

作業手順(3-2) ... 冗長構成の場合の残系での、データベース設定の有効化の作業。
1. drupal の 接続先DB設定の変更
2. 設定を反映するため、httpdを再起動

作業手順(3-3) ... Drupal の ログ出力設定の変更手順。とログローテート設定の作業手順。すべての Drupal サーバでの作業。
1. モジュールの有効・無効の設定を変更する
モジュール「Database logging」を無効にする
モジュール「Overlay」を無効にする
モジュール「Syslog」を有効にする
2. ログの出力先を設定する。
3. rsyslog の設定を変更する
4. ログが 出力されていることを確認する
5. ログローテーションを設定する。
6. ログローテーションの実行結果をテストする。

作業手順(3-4) ... Drupal の セッション期限設定変更手順。また、Drupal との HTTP 通信を拒否するよう、Apache の設定を変更する手順。すべての Drupal サーバでの作業。
1. セッションの有効期限を設定する
2. HTTP通信を不可にする

作業手順(3-5) ... Drupal サーバのローカルタイムゾーンをUTCに変更する手順。すべての Drupal サーバでの作業。
1. タイムゾーンをUTCに変更する

作業手順(4-1) ... Drushダウンロード手順。すべての Drupal サーバでの作業。
1. mariadbインストール
2. Drushをダウンロードする
3. ダウンロードしたファイルを解凍する
4. 解凍したファイルを移動する
5. 実行権限を付与する
6. パスを通す
7. ヘルプを確認する

以上

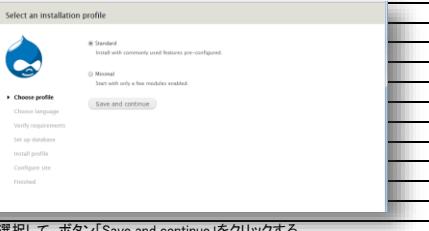
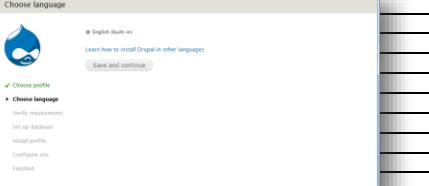
◆作業手順

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1.	ソースを展開する		サーバにソースファイルを展開する。 # WORKDIR=`pwd` # tar xvzf 提供資料名	
2.	バックアップ採取		通用先ソースをバックアップする。 # NEWDATE=`date "+%Y%m%d-%H%M%S"` # tar cvzf openstack-dashboard_bk_\${NEWDATE}.tar.gz /usr/share/openstack-dashboard	
3.	ソース適用		メニューファイルの適用 # cp -pf ./announces/dashboard.git/openstack_dashboard/local/enabled/* /usr/share/openstack-dashboard/openstack_dashboard/local/enabled/ スタイルファイルの適用 # cp -pf ./announces/dashboard.git/nec_portal/static/nec_portal/announcement % /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal/static/nec_portal/ ソースファイル適用 # cp -pf ./announces/dashboard.git/nec_portal/dashboards/project/announcement % /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal/dashboards/project/ 言語ファイルの適用 # sed -e '1.5d' \${WORKDIR}/announces/dashboard.git/nec_portal/locale/en/LC_MESSAGES/django.po >> /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal/locale/en/LC_MESSAGES/django.po # sed -e '1.5d' \${WORKDIR}/announces/dashboard.git/nec_portal/locale/a/LC_MESSAGES/django.po >> /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal/locale/a/LC_MESSAGES/django.po	

項目	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			設定の更新	
			# vi /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal/local/nec_portal_settings.py	
			追記)	
			# Announcement service server's top url ANNOUNCEMENT_SERVER =https://<drupalサーバのホスト名>/drupal/?q=user/login&destination=top	
			リンク集への追加	
			# vi /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal/local/nec_portal_settings.py	
			ADMIN_LINKS = [{ (name: 'Announce', description: '(Announcementmanagement)', url: 'https://<drupalサーバのホスト名>/drupal/?q=user/login&destination=admin',) }]	
			適用の反映	
			# cd /usr/share/openstack-dashboard/nec_portal # django-admin compilemessages # cd /usr/share/openstack-dashboard # python ./manage.py collectstatic --noinput # python ./manage.py compress --force # systemctl restart httpd	

◆作業手順

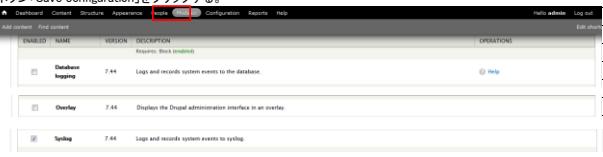
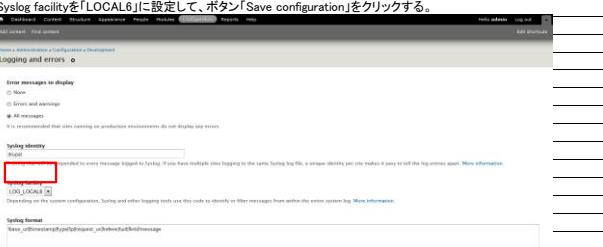
◆作業手順

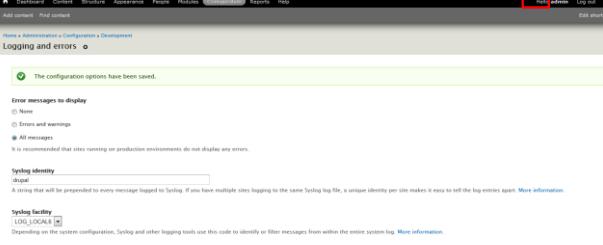
項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			※以下の手順は、下記の場合での手順。 データベースを共用しているDrupalサーバを複数台で構成する場合、 そのうちの一つで実施する作業手順	
1.	Drupalインストーラーを起動		ブラウザからインストールするマシンのDrupalへアクセスする。 <a href="https://<IPAddress>/drupal/install.php">https://<IPAddress>/drupal/install.php Standardを選択して、ボタン「Save and continue」をクリックする。	
2.	言語選択		Englishを選択して、ボタン「Save and continue」をクリックする。	

◆作業手順

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			<p>※以下の手順は、下記の場合での手順 データベースを共用しているDrupalサーバを複数台で構成する場合に、 作業手順(3-1)を実施したDrupalサーバ以外での作業手順</p>	
1	drupal の 接続先DB設定の変更		<p>Drupalサーバの設定ファイルのバックアップを、下記コマンドで採取する。</p> <pre># cp -p /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php \ /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php.bku</pre> <p>データベース設定を有効化するため、赤で示した行を削除する。</p> <pre># vi /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php (編集前) ※削除対象文字を赤色で示す。 ※Ansibleによって記載が変わっている文字を青色で示す。 215 /* YOU HAVE TO UNCOMMENT OUT THIS SETTING */ /* 216 \$databases = array(217 'default' => 218 array(219 'default' => 220 array(221 'database' => 'drupal', 222 'username' => "[drupal.db.username]", 223 'password' => "[drupal.db.password]", 224 'host' => "[drupal.db.server.ip]", 225 'port' => '', 226 'driver' => 'mysql', 227 'prefix' => '', 228), 229), 230); 231 */</pre>	
2	httpチェックの無効化		<p>Drupalサーバの設定ファイルを編集する。</p> <pre># chmod 644 /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php # vi /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php 以下の記述を追加 \$conf['drupal.http_request_fails'] = FALSE; # chmod 444 /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php</pre> <p>注意： サーバが複数台構成の場合、全てのサーバで行う必要がある(3も同様)。</p>	
3	設定を反映するため、httpdを再起動		<p>httpd を再起動し、設定を反映する。</p> <pre># systemctl restart httpd</pre>	

◆作業手順

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1.	モジュールの有効・無効の設定を変更する。 モジュール「Database logging」を無効にする モジュール「Overlay」を無効にする モジュール「Syslog」を有効にする		<p>メニューにある「Modules」をクリックする。</p> <p>モジュール「Database logging」のENABLEDからチェックを外す。</p> <p>モジュール「Overlay」のENABLEDからチェックを外す。</p> <p>モジュール「Syslog」のENABLEDにチェックする。</p> <p>ボタン「Save configuration」をクリックする。</p> 	
2.	ログの出力先を設定する。		<p>モジュール「Syslog」のリンク「Configure」をクリックする。</p>  <p>Syslog facilityを「LOCAL6」に設定して、ボタン「Save configuration」をクリックする。</p> 	

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
3.	rsyslogの設定を変更する		<pre>/etc/rsyslog.conf を編集して、以下の設定を追記する。 # vi /etc/rsyslog.conf # Save Drupal messages to drupal.log local6.* /var/log/drupal/drupal.log # Save news errors of level crit and higher in a special file, news.crit /var/log/spooler # Save Drupal messages to drupal.log local7.* /var/log/drupal/drupal.log # Save boot messages also to boot.log local7.* /var/log/boot.log</pre> <p>以下のコマンドを実行して、rsyslogを再起動する。</p> <pre># systemctl restart rsyslog</pre>	
4.	ログが表示されていることを確認する		<p>メニューにある「Log out」をクリックする。</p> 	

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			<pre>httpdファイルを編集する。 # vi /etc/logrotate.d/httpd /var/log/httpd/*log { su root root daily rotate 31 missingok notifempty sharedscripts compress postrotate /bin/systemctl reload httpd.service > /dev/null 2>/dev/null true endscript }</pre>	
6.	ログローテーションの実行結果をテストする。		<pre><syslog> # logrotate -d /etc/logrotate.d/syslog (出力例) not running postrotate script, since no logs were rotated</pre>	
			<pre><httpd> # logrotate -d /etc/logrotate.d/httpd (出力例) not running postrotate script, since no logs were rotated</pre>	

◆作業手順

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1	セッションの有効期限を設定する		<p>現状の設定を確認する。</p> <pre># cat /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php grep session.cookie_lifetime 出力例) ini_set('session.cookie_lifetime', 2000000);</pre> <p>変更する。</p> <pre># vi /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php 変更例 ini_set('session.cookie_lifetime', 0);</pre>	
2	HTTP通信を不可にする		<p>現状の設定を確認する。</p> <pre># cat /etc/httpd/conf/httpd.conf grep -n Listen 出力例) 34# Listen: Allows you to bind Apache to specific IP addresses and/or 38# Change this to Listen on specific IP addresses as shown below to 41:#Listen 12.34.56.78:80 42:Listen 80</pre> <p>バックアップを取る。</p> <pre># cp -p /etc/httpd/conf/httpd.conf /etc/httpd/conf/httpd.conf.org</pre> <p>http(80)ポートを閉じる設定に変更する。</p> <pre># sed -i -e "/^Listen 80/s/^/#/" /etc/httpd/conf/httpd.conf</pre> <p>変更を確認する。</p> <pre># diff /etc/httpd/conf/httpd.conf.org /etc/httpd/conf/httpd.conf 出力例) 42c42 < Listen 80 --- > #Listen 80</pre>	"0"はブラウザを閉じるまで有効

◆作業手順

項目番号	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1	タイムゾーンをUTCに変更する			
			以下のコマンドで、ローカルのタイムゾーンをUTC とする。 # timedatectl set-timezone UTC	※サーバ構築時にNTP設定されていること
			確認 # timedatectl 出力例)	
2			Local time: 月 2016-09-26 00:51:54 UTC Universal time: 月 2016-09-26 00:51:54 UTC RTC time: 月 2016-09-26 00:51:53 Time zone: UTC (UTC, +0000) NTP enabled: yes NTP synchronized: yes RTC in local TZ: no DST active: n/a	

◆作業手順